

2019年02月23日

「博士学位請求論文」審査報告書

審査委員 (主査) 国際日本学部 専任教授

氏名 尾 関 直 子 ㊞

(副査) 国際日本学部 専任教授

氏名 アレキサンダー オブライーン ㊞(副査) 東京外国語大学大学院総合国際学研究院
専任教授氏名 投 野 由紀夫 ㊞

1 論文提出者 王 煒彤

2 論文題名 English Language Textbook Analysis of Vocabulary and Learning Strategies in
Japan and Taiwan: From Elementary School to Senior High School(日本語題名) 日本および台湾の小・中・高英語検定教科書の分析—語彙と学習ストラテ
ジーを中心に—

3 論文の構成

Chapter 1

INTRODUCTION

Chapter 2

LITERATURE REVIEW

I. Current situation of English education

1. Changes and issues of English education in Japan
2. English as a subject in elementary school
3. Comparisons of the curriculum guidelines

Objectives of the curriculum guidelines

II. Corpus and English language textbooks

1. Importance of vocabulary in language acquisition
2. Vocabulary teaching and learning and the curriculum guidelines
 - Vocabulary size and high-frequency vocabulary
 - Vocabulary knowledge and the importance of retrieval
 - Vocabulary and the curriculum guidelines

3. Corpus as a research tool

Frequency word lists past and present

4. Corpus analysis of the authorized English language textbooks

Corpus analysis of elementary school English textbooks

Corpus analysis of junior and senior high school English language textbooks

III. Learning strategies and materials development

1. Definitions and categories of learning strategies
2. Effectiveness of strategy instruction in various contexts
3. Learning strategies and teaching materials around the world

IV. Applications to the present study

Chapter 3

METHODOLOGY

I. Research questions

II. Materials

III. Data collection

IV. Data analysis

Chapter 4

RESULTS

I. Corpus analysis of the authorized English language textbooks

1. Tokens, types, and lemmas
2. Lexical variety of vocabulary
3. Frequency of words in the textbooks
4. Lexical difficulty of vocabulary

5. The efficacy of the reference word lists
- II. Learning strategies in the authorized English language textbooks
 1. Strategy use in elementary school
 2. Strategy use in junior high school
 3. Strategy use in senior high school
 4. Strategy use from elementary school to senior high school

Chapter 5

DISCUSSION

- I. Continuity : From elementary to senior high school
- II. Differences caused by language policy and curriculum guidelines
- III. Washback effect of entrance examination

Chapter 6

CONCLUSION

- I. Summary of findings
- II. Implications for materials development
- III. Limitation and suggestions for further studies

REFERENCES

4 論文の概要

本論文は、Introduction, Literature Review, Methodology, Results, Discussion, Conclusion の全6章で構成されており、各章の概要は次の通りである。

第一章 Introduction は、本論文の研究背景および各章の要約である。現在使われている英語検定教科書を分析し、その問題点を明らかにすることにより、新学習指導要領を具現化する今後の英語教科書の方向性を示すことができる。したがって、本研究は日本と台湾の小・中・高における英語検定教科書の語彙および学習ストラテジーを比較分析して、日本の英語検定教科書について提言することが目的である。

この研究目的に基づいて、第二章 Literature Review では、本研究のテーマと関連する先行研究などのレビューを行っている。本章は、3つのセクションに分けられる。(1) 日本及び台湾における英語教育の現状、(2) コーパスと英語検定教科書、(3) 学習ストラテジーと教材開発の3つである。まず一つ目は、日本と台湾における英語教育の現状を比較している。日本の英語教育改革が進むにつれて小・中・高それぞれの教育段階で直面する課題をはじめ、大学入学試験が英語授業に対して与える影響、小学校英語教科化に伴う教材の重要性、日本の学習指導要領と台湾の課程綱要の目標等を論じている。また、なぜ日本と台湾という2つの国の英語検定教科書の国際比較を行うかについて説明している。二つ目のセクションは、語彙および英語検定教科書のコーパス分析についての文献レビューである。三つ目のセクションでは、学習ストラテジーの定義とカテゴリー、学習ストラテジー指導、教材との関係性について論じている。

第三章 Methodology は、研究方法についての説明である。分析対象となったのは、日本と台湾のそれぞれで採択率が高い英語検定教科書である。日本においては、小・中・高の合計22冊を、台湾に関しては、合計60冊を分析した。データ分析は教科書コーパスに基づいた語彙の分析と教

科書アクティビティに使用されている学習ストラテジーの分析である。

第四章 Results は、日本及び台湾の英語検定教科書の語彙と学習ストラテジーの分析結果を論じている。語彙に関しては、小学校から高等学校まで、台湾の英語検定教科書は日本の英語検定教科書より全体的に総語彙数が多く、そして語彙サイズも大きいということが分かった。次に、語彙の頻度について、台湾の小学校英語検定教科書の中に重複回数が 10 回以上の単語の割合は日本の小学校英語教材より高いことが明らかとなった。また、語彙の難易度に関して、日本および台湾の中学校と高等学校の英語検定教科書は、高頻度語のカバー率が 8 割以上であるものの、台湾の小学校英語検定教科書は日本の小学校英語教材より高頻度語の割合が高いことが判明した。続いて、学習ストラテジーの分析結果であるが、日本と台湾の小学校から高等学校までの英語検定教科書は、全体的にメタ認知ストラテジーを使用するアクティビティが少ないことが明らかになった。

第五章 Discussion では、日本及び台湾の英語検定教科書の語彙および学習ストラテジーの分析結果について考察している。考察は主に 3 つに分けられる。まず、小学校から高等学校までの、それぞれの教育段階における語彙習得および学習ストラテジーの使用について、英語検定教科書の構成を検討している。次に、英語検定教科書は、語彙と学習ストラテジーの観点からみると、日本の学習指導要領および台湾の課程綱要を反映している部分とそうでない部分があることを指摘し、英語検定教科書を使用することによって、英語教育の目標を達成できるかを論究している。最後に、高等学校の英語検定教科書が大学入学試験のウォッシュバック効果に影響されていることに対して、大学入学試験の改革を踏まえて提言をしている。

第六章 Conclusion は、本研究のまとめ、分析結果から見た教育的示唆、本研究の限界および今後の課題について論じている。より質の高い教材開発のため、授業観察やインタビューなどの質的調査を行い、教科書と英語授業の関連性を把握することが今後の課題として挙げられている。

5 論文の特質

日本において初等、中等教育レベルでの英語教育改革が進んでいる一方、初等、中等レベルの英語教育の研究は十分されておらず、問題点の究明もあまりされていない。小・中・高の英語教育を考察するために日本と台湾の教科書を調査対象としているところがこの論文の特徴である。分析対象とした教科書は、日本の教科書では、文部科学省が配布した小学校英語教材『Let's Try 1 & 2』、『We Can 1 & 2』の 4 冊、中学校 3 社 9 冊と高等学校 3 社 9 冊、合計 22 冊、台湾に関しては、教科として英語を導入している小学校 3 学年から 6 学年の 3 社 24 冊、中学校 3 社 18 冊と高等学校 3 社 18 冊、合計 60 冊であり、合わせて 82 冊という膨大なデータを取り扱っている。

また、言語習得において重要な役割を持つ、語彙と学習ストラテジーの両方を分析しているところも本論文の特質である。語彙分析のために、分析対象となった英語検定教科書の各レッスンの本文およびアクティビティに書かれた英語文章を手作業で入力したり、スキャンしたりし、教科書コーパスを構築した。構築された教科書コーパスは、*AntConc* および *AntWordProfiler* という二つのソフトウェアを使い、語彙サイズ、頻度、難易度の点から分析している。一方、学習ストラテジーの分析は、Chamot (2009) の学習ストラテジーのカテゴリー（メタ認知ストラテジーとタスクに使用するストラテジー）に基づいて各レッスンのアクティビティを分析している。学習ス

トラジェーの分析に関しては、より信頼性の高い結果を得るために、評価者間信頼性 (interrater reliability) も求めている。このように、小・中・高の台湾と日本の教科書を語彙と学習ストラジェーの観点から詳細に分析した論文は今までに発表されていない。

6 論文の評価

本論文は、詳細な先行文献レビューから始まり、教科書分析、分析結果、結果の考察、そして結論とすべての章が論理的に、かつ精密に書かれている。今までほとんど分析調査されてこなかった日本と台湾の小・中・高の英語の教科書を語彙と学習ストラジェーの観点から詳細に分析しており、これほど教科書を批判的に、科学的に分析した論文は、本論文が初めてであると言える。また、分析結果から、「日本の小・中・高における英語教科書は台湾の教科書に比べて語彙サイズが少ない」、「日常で頻繁に使われる語彙が十分にカバーされていない」、「難解な語彙については教科書の中で繰り返し使われるような工夫が少ない」、「学習ストラジェーに関してはメタ認知ストラジェーが教科書においてあまり明示的に教えられていない」などの問題点を的確に指摘している。また、それらの課題の解決に向けた提言もしている。今後作成される日本の小・中・高の英語の教科書、さらには、日本の初等、中等教育の英語教育に対して有益な示唆を与えている論文である。

7 論文の判定

本学位請求論文は、国際日本学研究科において必要な研究指導を受けたうえ提出されたものであり、本学学位規程の手続きに従い、審査委員全員による所定の審査及び最終試験に合格したので、博士（国際日本学）の学位を授与するに値するものと判定する。

以 上